

令和元年度 特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

大学と地域の特性を活かした 音楽人育成のキャリア教育

学校法人東成学園
昭和音楽大学

『昭和音楽大学』

新宿駅から約20分、小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩4分のところに昭和音楽大学があります。音楽教育に特化した単科大学である当大学は平成19年に厚木市から「音楽のまち・かわさき」、「しんゆり・芸術のまち」を掲げる川崎市新百合ヶ丘地域にキャンパスを全面移転しています。

昭和音楽大学を設置する学校法人東成学園は、音楽家の下八川圭祐氏が昭和5年に設立した下八川圭祐音楽研究所を前身とします。その後、15年に東京専音楽学校、44年に昭和音楽短期大学（現在、昭和音楽大学短期大学部）、59年に昭和音楽大学を開学し、今年学園は創立80周年を迎えました。

建学の精神として「礼・節・技の人間教育」を掲げ、礼（礼儀、節（節度）、技（技術・技能）を身につけ、高い品性とコミュニケーション能力を持った音楽を軸に多彩な分野で活躍する音楽家・音楽人の養成を行っています。

当大学の音楽学部は、音楽芸術表現学科と音楽芸術運営学科から構成されています。音楽芸術表現学科には、ピアノや声楽、作曲、弦・管・打楽器をはじめとしたクラシックの各コースの

ほか、ジャズやポピュラー音楽など14のコースがあります。音楽芸術運営学科にはバレエ、ミュージカル、舞台スタッフ、アートマネジメント、音楽療法、音楽教養の6つのコースがあります。



昭和音楽大学南校舎

【キャリア教育導入までの背景】

現在、卒業後の進路として就職を選択する音楽大学生は少なくありません。当大学の平成30年度の就職希望率は62・2%、就職決定率（一時的な仕事に就いた者を含む）は94・4%で、そのうち3人に1人は一般企業に就職しています。

キャリア教育等を通じ、音楽への関

わり方に関する視野が広がった卒業生は、大学で学んだ専門分野や、音楽を通して培ったコミュニケーション能力・課題解決力・自己管理能力を活かして、音楽関連企業、医療・福祉・教育・保育の分野、一般企業等、様々な分野で活躍しています。

以前は「音大に入ったからには自己研鑽」、「教養としての音楽」という伝統的な意識が学内に根強くあり、また一般大学に比べ女子学生が多く在籍する当大学は、就職を希望する学生は非常に少なく、教職員や学生は、キャリア教育や学生自身の将来について敏感に意識することがない状態でした。

昭和音楽大学のキャリア教育導入には、川崎市へのキャンパスの移転が大きく影響しています。

音楽大学であることから、キャンパス移転前でも地域からの依頼に応じて演奏等に対応することがありましたが、地域との繋がりはそれほど強いものではありませんでした。しかし移転計画を契機に、社会や地域と繋がりを築き、大学のことを理解して貰うため、大学が目指す方向性を明確にするべく、様々なコースの教員が共同で研究を行う等、新しい取り組みが行われました。

また、平成6年度に芸術文化活動のプロデューサーを育成する「アートマネジメントコース」を日本で初めて設置したことや、賃労働に従事する女性の増加や景気の低迷などの社会的変化

によって、大学内ではキャリアへの意識が高まりつつありました。また実技を重要視する教職員もそれぞれの専門分野を披露するためには、教養や社会性も重要であると考えていました。

そして平成19年度のキャンパス移転とキャリア教育への意識変化を契機とし、「アーツ・イン・コミュニティ」という地域と連携した教育・実践活動を見現化しました。この取り組みは平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」テーマ1「地域活性化への貢献（地）元型」に採択されています。

その後、平成22年度に文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、翌年度から体系的なキャリア科目を導入、全学的なキャリア教育導入へと至りました。

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	芸術特別研究Ⅰ 芸術特別研究Ⅱ			
選択科目	音楽活動研究① 音楽活動研究② 音楽活動研究③ 音楽活動研究④			
	ミュージックビジネスと社会			
	ライブビジネスと社会			
	キャリアデザイン			
			フィールドイノベーション①	フィールドイノベーション②

令和元年度 キャリア教育科目一覧

【キャリア教育に関する取り組み】

様々なバックグラウンドを持った者が

入学するようになり、音楽を学ぶ目的意識や将来に対する考えが多様化する中で、キャリア教育は将来について考え、視野を広げる機会を与えるものと位置付けて、カリキュラムに取り込むこと、学生それぞれにあった対応をすること、学生や社会のニーズを把握し生かすことの3点を重視して様々な取り組みをキャリアセンター、キャリア委員会が中心になって進めています。

① キャリア科目（音楽活動研究）

当大学の特徴的なキャリア科目として「音楽活動研究」があります。

これは、前述の「アーツ・イン・コミュニティ」を「音楽活動研究」として科目化したもので、学生の専門分野を生かし、地域社会と連携して多様なニーズに対応した活動を行います。具体的には小・中学校や福祉施設での演奏、コンサート等の企画運営、演奏指導等が挙げられます。学生は教員以外の学外の人と音楽を通じて関わり、評価を得ることで、社会性を獲得し、更に技術を向上することができます。

平成19年度のキャンパス移転を機に取り組みがスタートし、平成20年度から科目化されたこの科目は、派遣先から高い評価を得ており、また履修を希望して入学する学生も毎年一定数おり、学生から高い人気を得ています。このように音楽活動研究は、大学と地域をつなげる「地域貢献」だけでなく、

学生の視野を広げ、音楽への関わり方を考える「キャリア教育」にもなっています。



音楽活動研究 活動風景

② 各種調査

毎年全学生を対象に、卒業後の進路や、進路のために取り組んでいることを「進路意識調査」として調査しています。クラス担任や実技の指導教員は結果をもとに、進路に関するアドバイスをするほか、キャリアセンターにて学生ごとに個別に保管して「全員面談」(③参照)にも活用しています。

その他には、卒業生の就職先企業や卒業生に対して「社会における音楽大卒生に対するニーズ調査」、「産業界のニーズ調査」、「卒業生の就業状況調査」を定期的に実施しています。調査を行うことで、学生や社会のニーズを把握し、カリキュラムや進路支援講座、企業説明会に反映させています。

③ 全員面談

翌年度に卒業を控えた学生全員が、キャリアカウンセラーやキャリアセンター職員と面談をします。卒業後の進路が決まっているか否かに関わらず、個別に時間をつくり、顔を合わせて話すことで、それぞれの学生に必要な支援の提案やキャリアセンターの活用方法を改めて伝えることができます。個々に対応するため時間はかかりますが、確実に効果的かつ効果的な方法になっています。クラス担任や実技の指導教員とも協力し、教職連携で学生に呼び掛けているため、参加率は高く、85%を超えています。

④ 音大に対する従来イメージの払拭

社会の音楽大学に対するイメージは「狭い意味での音楽人材養成」が広く根付いていて、学生が就職活動を行っていく中で戸惑うケースも少なくありません。このイメージ払拭のために、教員と職員がペアとなって行う企業訪問の際には、当大学が行っている取り組み、輩出している人材の強み、活躍している卒業生の事例等を説明し理解を得るようにしています。このような企業へのアプローチを積み重ねた結果、近年の就職先の業種拡大に繋がっています。

学生達が企業の中で活躍する具体的なイメージを企業側が描けるように、今後も積極的な広報活動を行っていくことが課題となっています。



キャリアセンターにて、面談の様子

【取材を終えて】

「特に芸術系の大学では、学生と近い距離にある教員が学生の希望を否定せず、進路を応援する雰囲気であることが重要だと思う。取材の中で印象に残った言葉です。学生の卒業後のことは職員を中心に行っている大学は少なくないと思われませんが、昭和音楽大学は校舎の移転が大きなきっかけとなり、大学全体で学生のキャリア形成に親身に寄り添うという土壌が整ったのだと思います。また校舎の周囲には大きな塀がなく、周辺地域に溶け込んでいるように感じました。これは当大学のキャリア教育に関する取り組みを象徴的に表しているのではないのでしょうか。」

(取材) 私学経営情報センター